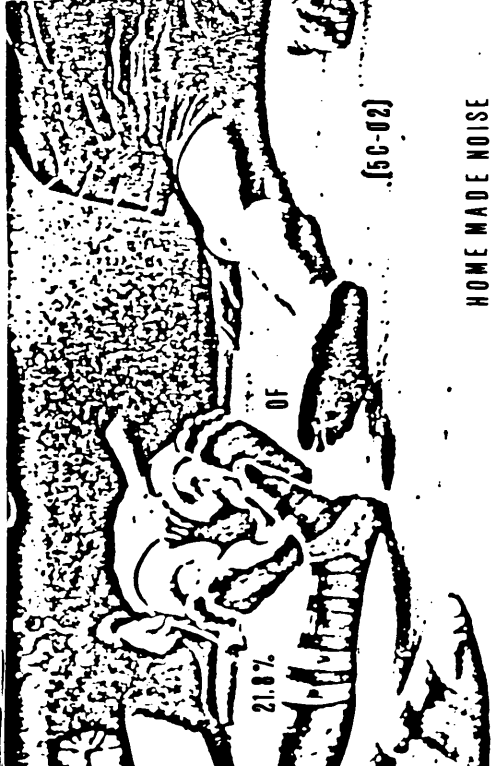


SHANARUM

21.8% OF HOME MADE NOISE / HOME MADE NOISE I-IX
SIDE "A"
1. SHAGGY MOON / ON THE RIVER / HMN I.
2. SYNCHRONIZED TIMING / DYNAMIC NOISE / HMN II.
3. DNA - DYNAMIC WITH 2 RECORDERS / HMN III.
4. SOUNDTRACK / ASSOCIATION / HMN IV.
5. IMPROVISATION WITH 2 RECORDERS / HMN V.
6. TIED VOCAL CORDS / FROM THE 8MM MOVIE "AKAI MAYU" / HMN VI.
7. ACROSTIC GUITAR / HMN VII.
8. TIRED / HMN VIII.
9. HOME MADE DRAMA / HMN IX.
10. EAGERPT / FROM THE 8MM MOVIE "AKAI MAYU" / HMN X.
11. ON TAPE DELAY SYSTEM / HMN XI.
12. ALL TUNES WERE RECORDED FROM 1977 TO 1979 IN MORIOKA IWATE JAPAN - EDITED BY ONNYK YKAYSOY

SONNYKIDS



21.8%

OF

[5C-02]

HOME MADE NOISE

5C-02 21.8% OF HOME MADE NOISE / HOME MADE NOISE I-IX

PRODUCED BY ONNYK, HOME MADE NOISE, FIFTH COLUMN, & THE ASSOCIATION FOR LOCAL IMPROVISERS. このテープに収録するおはりの

台合せは〒020 岩手県盛岡市中野1-10-31. 金野子吉晃
まで... PHONE 0196(52)4673.

SIDE A

- 1. Shaggy Moon on the River / H.M.N.I
:Onnyk, Kamiyama & Nakashima(recorder, chinese mussett, bottles, cork screw, synthesizer, boo-boo, reeds, harmonica, mandolin, violin, drum sticks, bells, mallets, chair, lamp, kazoo, mouth harp, bongoes, and many junks).
Recorded 20 August 1977 at Onnyk's room, Morioka. Over-dubbed.
- 2. Synchronized Timing... (We are talking about Japanese Beautiful Literature.) / H.M.N.II
:Kazuki(synthesizer), Onnyk & Akanarum(percussion), ?(reading).
Recorded August 1977 at Onnyk's room.
- 3. D.N.A. (Dynamic Noise Association) / H.M.N.III
:Kodama, Soukawa, Akanarum, Fujisawa & Onnyk(voice, breath, snapping, noise from bodies, junks, synthesizer, lighter, bells, prepared guitar: synthesizer and additional percussion on right channel were operated by Onnyk).
Recorded July-August 1977 at Kodama's house and Onnyk's room, Morioka. Over-dubbed.
- 4. Sound Track from the 8mm Movie "Akai Mayu" / H.M.N.IV
:Kodama & Onnyk(tape loops editing).
Recorded 1977 at ~~Kodama's house and~~ Onnyk's room.

SIDE B *October*

- 1. Improvisation with 2 recorders and 1 acoustic guitar / H.M.N.V
:Kazuki(acoustic guitar), Onnyk(soprano recorder), Geso(alto recorder), some friends(ridiculous talking and laughing).
Recorded 27 December 1977 at Kodama's house.
- 2. Tired Vocal Cords / H.M.N.VI
:Onnyk(howling and voice), Geso(voice), noise from out of half-open window.
Recorded 11 August 1978 at Onnyk's room.
- 3. (1)"Fleas vs. Fly" in your head... (2)the music next but last? (3)eep, critch, cratch, crack pot / medley, excerpt from H.M.N.VII "On Tape Delay System"
:Kodama(voice, tape operation, guitar), Onnyk(percussive guitar, voice, harmonica, echo ~~machine~~ operation), Akanarum(harmonica, voice, bottle cracking noise). *intensity*
Recorded 20 & 21 November 1978 at Kodama's house.
- 4. Home Made Drama / H.M.N.VIII *and 2 pieces*
(1)Nazo no otoko no ai to kunou (2)Picnic on the bottom of frozen river (3)Why are we drumming now? (4)Pseudoethnologica
:Kodama, Onnyk(voice, percussion, reeds), Soukawa, Akanarum(voice).
(1) & (2) Recorded December 1978 at Kodama's house; (3) & (4) Recorded December 1978 at Onnyk's room. Play back speed was altered. (1) & (2).
- 5. H.M.N. plays Bizet / H.M.N.IX *home made drum*
:Onnyk(violin, ~~percussion~~), Akanarum(klaxon, *reed*).
Recorded May 1979 at Onnyk's room. *home made*
- 6. Excerpt from H.M.N. Session (H.M.N.X or H.M.N.I) *electric*
:Nakashima(percussion, organ, electric piano), Kamiyama(organ, guitar, percussion), Onnyk(violin, trumpet).
Recorded 4 April 1979 at ~~Image-Box~~ Image-Box Studio, Morioka.

5C-02. "21.8% of 'Home Made Noise'" — 解説

— 音楽についていえば、私は自分の立場を五万年前の人間の立場においてみたい。そこでは人間は、西洋音楽の何たるかも知らず、彼自身の為に、何の参考も習練も、彼自身を自由に表現するのを妨げる何物も無くして、彼のたいなる喜びの為に、音楽を創造したのだ。

Jean Dubuffet (フランスの画家)

— (音楽に関する事を語るに求めたいという要望に対して)
残念ながら言葉では不可能です。なぜなら話し言葉があり、さらに音楽もあるわけですから。これらは全く異なる二つのものなんです……

Han Bennink (オランダのマルチ・インスト
ラumentalist)

はじめに...

私は1977年の春に集団即興演奏の試みを開始した。そして、演奏を記録したテープに 'Home Made Noise' という名を与えて残すことにした。この試みをはじめたばかりのころ、私は、「これは単なる実験にすぎない。あるいは、^{より高度な}即興演奏を可能にするための練習の場である。したがって、これをこのままのかたちで発表するようになることはない」と考えていた。しかしその後 'Home Made Noise' の録音が増え、並行して Solo の録音 (これは 'Field Works' というタイトルをつけている) を行い、それらのテープを聴きかえし、さらに即興演奏のみならず、「即興」という概念について一般的なものを検討してきた結果、現在でははじめの頃の考え方を否定せざるを得なくなってきた。つまり即興演奏においては練習も本番もあり得ず、ただ演奏自体を全うするという事以外にはあまり確実に定めうるような方法も素材もないのだ、というごくあたりまえのところに来てしまったのである。(もっとも、「あたりまえ」だから「簡単」であるという訳にはいかない。それは身近なものや、普段の行為にもよく見られることだ。)

このテープ "21.8% of 'Home Made Noise'" ~~は~~ 私の以上の考え方に基^にて編集されたものである。タイトル ~~は~~ は、今までに録音された H.M.N. の全録音時間で、このテープに入っている演奏の時間を割って、割合を出したところからつけられた。

5C-02

曲目について...

A-1: HMNのキ、とも初期の録音。左右のチャンネルが別々にとられた。はじめの計画では一方はローカッション音、もう一方は持続音という事を意識してやる筈であったが、結局、演奏中の気分の高揚によって約束事は無視されるに至った。初聴者同志の演奏によく見られるパターンへの執着、(リズムやメロディーの自然発生とそれへの追隨)があらわれている。かもしれない。

A-2: LL用のテープを使ったものに片チャンネルだけが録音された。演奏前に特に約束を定めた訳ではないが、ミニマルミュージックなどを意識した点もあるのかもしれない。朗読と組み合わせた事には別に何の意図も無かったが、リズム感が多少類似している気がする。というのはうそである。

A-3: はじめに肉音や具音のチャンネルがつくられ、かなり時間をかけてシンセサイザーによる録音が重ねられた。はじめはシンセでも、具音音群を模倣するつもりであったが、結局それは途中で放棄してしまっただ。

A-4: 友人の自主製作フィルムの為の効果音をスピード変化や反転、左右チャンネルの分離等により編集したもの。様々な長さのテープによるループをつかって録音された。素材となったのは肉声、ラジカマンドリンなどである。

B-1: 友人宅でテープレコーダーによるエコーを即席につくり、談笑している中で録音されたもの。特筆すべきなのは、演奏に集まっていた3人に文才し他の人達は何の関心も示さなかった事であり、聞こえてくる会話 ~~は~~ はまったく予期されていなかった偶然のものである。

B-2: A-3とは逆にはじめにハウリングによるノイズを構成していき、後から声をつかってこれを模倣するという試み。特に発見は無くひどく疲れたことが印象に残っている。

B-3: テープレコーダー Aで録音したテープが、Aでまきとられず、テープレコーダー Bで再生したあと Bにまきとられる。というシステムをつかって録音された。これはフライアン・イン ~~...~~ がすでに発表しているし、友人もすでにこの方法を用いたコンサートを行っているので、追討ということになる。ゆ、くりと起きているハウリングが彼のようにあらわれてくると、西洋の鐘の音を遠方で聴いているような感覚を体験した。機会があれば是非試してみたい。

5C-02

- B-4: ①と②は全く声かけでつくられている。エコーをかけたリ、テマスピークを変化させたりすると、(あるいはP-3のようなディレイやA-4のようなルーブでいいか) 普段何気なく聴いている音を変質してあるいは拡大・縮小されて思わぬ発見と与える事が多い。これもでんごに好き勝手に声を出したたけの音であるが、スピード変化によってマンガの効果音のようなコミカルなフレイクかできている。③と④はまた別の試みで、限定的素材による可能性を考えていたが、素材にしばられるままにせい。あまり成果はあがっていない。④は左右のチャンネルで楽器を持ちかえて二重録音したものの。
- B-5: 即興演奏でよく「パロディー」「引用」といった問題が討議にされることがあるが、これは別に何の意図も批評精神もなく思いついたヒューの「カルメン」(これは聞こえないで「しょうが...」のフレーズをまじめに作ったものである。というのほうである。
- B-6: HMNIと同じメンバーで行った録音であるが、スタジオでドラムセット、エレキギター、オルガン、エレピ、などをしているため結局コードや知っているパターンなどの模倣に陥りやすく、前半は何かのグループのコピー風でつまらないものであったが、後半比較的自由的なフレイクが出てきてこのようになつた。即興演奏は真似や単なる模倣にあおってしまてはいけな。電気楽器は様々な音色の変化を容易にし、操作性が良く、未熟な演奏者にも親しみやすいのが、それ故ひとり勝手に音のちがや、大音量による対話の放棄といった状態になりやすいことも確か。他人の音を聴く事から即興、特に集団の即興演奏ははじまる。

あわりに...

おそらく我々のしている事は「音楽」ではない。「音を楽しむ事」が音楽である」と説く人があるが、そういう人にとっての「音」は多分限定的なその場合が多く、殆んどの場合いかなる「楽器」から出る「音」をさしているのである。私は予定された手順や決定された形式をつかうのは好きでない。また、おもしろさを確認するよりも、自分をおどろかすような発見をするのが好きなのだ。私は「楽器」と素材としてとり、音を出す為の道具(=素材)に優劣はあり得ないと考えている。声やあまかんはシンセサイザーやサキソフォンに何ら劣るところがないのに対し、音を出す以外

5C-02

にも使えるのだから実に便利である。友人のMの言葉を借りれば、「音を出すしか能のない道具なぞもはや奇形にすぎない」とまで言える。(もっとも何に対して「奇形」なのかはよくわからないが。) まあ少なくともサキソフォンで水を飲んだり、グラントピアノで物を書いたりするのは至難の技であろう。

いわゆる「音楽的習練」の無い私のような人間にとって、ストローを切ったリード、あきかん、あきびん、ラジオ、声、リコーダー、カヌー、ハーモニカなどの非楽器、類楽器、簡易楽器などの「操作性」の良さ、や「発見の喜び」の方が重要なのであって、それ以上のものを求めるのはあまり意味がない。

まあ、以上のような理由から、私は冒頭に記したジャン・デュッセツェンフェヤ、ハン・ヤニングのような人々の行為を尊敬するようになったのである。というのはうそである。

最後に、このテープの音質の悪さに関して。これらの録音の全てが私の持っているラジカセと、小玉氏の所有する平入木の悪いテープレコーダーによって記録された。そのためこのようなノイズなものになってしまった。しかし私にとっては、アイデアをすばやくとらえて記録しておくことが重要なのであって、そのためには多少音が悪くとも手軽で便利なものの方が、高価な管理に手間のかかる機材よりも重要なのだ。機材の問題も我々の日常的な演奏の一要素なのである。あえて高品質録音は望んでいない。

Onnyk Ykaysoy 199. June, 2nd.